

会 議 議 事 録

1 会議名	第4回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	令和7年7月31日（木曜日） 午後2時00分から午後4時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	（委員） 大原委員長 佐々木副委員長 広川副委員長 石坂委員 大島委員 勝身委員 ガーヴィー委員 草間委員 黒崎委員 近藤委員 佐野委員 高野委員 田中委員 外山委員 中野委員 駒野委員 原委員 山岸委員 山田修委員 山田光枝委員 渡辺委員 （長岡市） 野口理事（行革担当兼総務部長） 長谷川産業政策監 谷畑理事（土木部長） 五十嵐地方創生推進部長 五十嵐ミライエ担当部長 古田島女性活躍推進担当部長 植村 DX 推進部長 入澤危機管理監 山田原子力安全対策室長 大野財務部長 大矢地域振興戦略部長 小池市民協働推進部長 佐山環境部長 西山商工部長 高野観光・交流部長 波形農林水産部長 太刀川都市整備部長 高頭中心市街地整備室長 新沢会計管理者 星野子ども未来部長 植木水道局長 近藤消防長 渡辺福祉総務課長 佐藤教育総務課長 中村学校教育課長 中村政策企画課長 上村政策企画課課長補佐 平野総合計画策定担当係長 中村主任 宮崎主任
5 欠席者名	坂田委員、西片委員、ヌルアデリン委員、樋口委員
6 議題	1. 第3回総合計画策定委員会での委員意見への対応について 2. 長岡市総合計画素案について 3. 次回開催について
7 審議結果 の概要	・ 総合計画素案について説明 ・ 総合計画素案について審議 ・ 委員会内での意見を基に原案の作成を行う

8 審議の内容	
地方創生推進 部長	本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。 それでは、ただいまから、「第4回長岡市総合計画策定委員会」を開催いたします。 私は事務局の地方創生推進部、五十嵐でございます。よろしくお願いいたします。 本日は坂田委員、田中委員、アデリン委員、樋口委員が所用のためご欠席です。また、勝身委員、ガーヴィー委員はオンラインでのご参加となります。また、西片委員は若干遅れて参加と伺っております。 はじめに、大原委員長からご挨拶をいただきます。
委員長	本日はお忙しい中ご出席を賜り、感謝申し上げます。 前回の第3回策定委員会では、委員の皆さんから専門分野のグループで議論をしていただき、専門的な視点、あるいは日々の経験の中から、忌憚のないご意見を数多くいただきました。 第4回目の策定委員会となる本日は、委員の皆さんのご意見を反映した「計画の素案」について意見を頂戴したいと思います。 本日は素案の作成に関わっている市の部局長の皆さんやオブザーバーとして分科会長・副会長の皆さんからもご出席いただいています。 委員の皆さんからの質問や意見については、部局長からお答えいただくこともあるかと思うので、この機会に意見交換ができればと考えております。
地方創生推進 部長	大原委員長ありがとうございました。 それでは、ここからの議事につきましては、委員長にお願いしたいと思います。
委員長	それでは、議事に入ります。 始めに、資料1、資料2、資料2別紙について、事務局から説明をお願いします。
地方創生推進 部長	それでは「計画の素案について」ご説明させていただきます。 5月22日開催の第3回策定委員会では、策定委員の皆様から貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。 本日お諮りする「素案」につきましては、前回の策定委員会でご議論いただきました「骨子案」に対する皆様のご意見を踏まえ、庁内の各分科会にお

	いて再検討し素案に反映するとともに、今回新たに重要業績評価指標、K P I の目標値の設定を行ったものであります。 資料のボリュームが大変大きくなっておりますので、恐れ入りますが、骨子からの変更点など、要点のご説明とさせていただきます。 はじめに、資料 No 1 「第 3 回総合計画策定委員会での委員意見への対応について」をご覧ください。 前回、第 3 回の策定委員会のグループ討議において皆様からいただきましたご質問やご意見について、改めて庁内の各分科会において検討や見直しを行いました。その結果につきまして、網掛けの部分の「意見に対する対応」へ記載しております。また、「素案」に反映いたしましたご意見につきましては、一番右の欄に資料 2 「素案」のページと反映箇所について記載しております。 それでは、資料 No. 2 「長岡市総合計画素案」をご覧いただきたいと思っております。 まず、2 ページ「第 1 章序論 第 1 節 総合計画について」をご覧ください。総合計画の策定の趣旨のほか、総合計画の位置づけ、計画期間を記載しております。 次期総合計画につきましては、これまでもご案内した通り、「基本構想」と「基本計画」の 2 階建てとし、この「基本構想」部分は議会議決を経て策定する箇所となります。今後、3 月議会において議員の皆様から御審議いただくこととなります。 次に、P 3 の「まちのプロフィール」は、骨子案から肉付けをした部分となっております。また、P 4 から P 14 までは、「本市をとりまく状況」として、次期計画の前提となる本市の現状について、各種データにより整理したものです。P 15 の「人口の将来展望」は、骨子案から変わりありません。 P 16 の「まちの将来像」につきましても、ご審議いただいた骨子案から大きな変更はありません。 「変わるれ！長岡」をキャッチフレーズとし、各地域で培ってきた文化・歴史・精神性などの原点や、これまでのポテンシャルを大切にしながら、従来のやり方や現状にとらわれず、イノベーションを進める決意を長岡の方言で表しています。 将来像としては、「住み続けたい 戻ってきたい 選ばれるまち ～イノベーション先進都市～」と掲げました。これは、人口減少・少子高齢化の中にあっても、イノベーションを進め、都市の拠点性を高めることで、市民一人ひとりが幸せを実感し、住み続けたい、長岡を離れても戻ってきたいと思えるまちとなり、全国・世界の人々や企業、観光で訪れる方から選ばれるまちに
--	---

	なることを目指すものです。 P17、P18の「基本目標」も骨子案から大きな変更はありません。将来像の実現のため、6つの基本目標を設定したものです。また、基本目標ごとに設定した「変わるれ！宣言」は、キャッチフレーズの「変わるれ！長岡」の具体的なイメージを持っていただくため、長岡がこれからの10年で、どのように良くなるのか、また、そのためにどのようなことに取り組んでいくのかについて、意気込みを込めて、市民の皆様にわかりやすくお伝えするものです。 次に、P22の「第3章 基本計画」の「第1節 総合計画の構成について」は、計画の全体像を掲載したもので、骨子案から大きな変更はありません。 次に、P23の「第2節 重要業績評価指標、K P I」をご覧ください。 「骨子案」では、K P Iの項目レベルまでをお示ししておりましたが、この素案で新たに目標値や目標設定の考え方などについてお示ししております。 K P Iを活用して、各施策の進捗状況を客観的に把握するとともに、市民アンケートなども踏まえて計画の評価を行い、施策の改善につなげてまいります。 指標は、「総合指標」、「主要指標」、「施策の柱ごとの指標」の3種類を設定いたしました。 まず、「総合指標」は、施策の柱ごとの指標では測れない重要な指標を総合指標として設定したものです。 将来像の「住み続けたい 戻ってきたい 選ばれるまち」の実現に向け、「長岡に住み続けたいと思う市民の割合」を向上させること、「社会動態」の転出超過を解消することを総合指標としました。 総合計画で掲げる政策や様々な取組みを推進することによる総合力により、この目標を達成していきたいと考えております。 次に、「主要指標」は、施策の柱ごとの指標の中から特に重要と思われる代表的な指標を基本目標ごとに選定したものです。 「主要指標」につきましては、P24以降、基本目標ごとに記載しております。 政策に紐づく「施策の柱ごとの指標」は123の指標を設定しております。 次期総合計画のK P Iの数は、現段階では、2つの総合指標を含めて合計で125となっております。計画期間においては、この全てについて毎年度数値を調査し、進捗状況を把握することで施策の成果を確認してまいります。これらのK P Iの内容は、後ほどご説明いたします「資料2別紙のK P I一覧」にも記載しております。
--	--

委員長	続きまして、P24「第3節 政策」をご覧ください。 このページ以降は、基本目標を推進するため、それぞれの目標ごとに政策を設定し、政策の目指す姿と政策に紐づく「施策の柱」を記載しております。 また、「施策の柱」ごとに、現状や課題、主な取り組み、K P I までが一気通貫となっているかなどをわかりやすくする観点から、一連で整理しております。各分野における現状や課題を踏まえた取り組みにより、基本目標及び将来像の実現を目指します。 なお、基本目標ごとに文字等のベースカラーを変えて記載しておりますので、ご確認いただく際の参考にしていただければと思います。 続きまして、「資料2別紙K P I 一覧」をご覧ください。 資料2別紙のK P I 一覧表には、素案に記載のK P I について、中間目標、最終目標のほか、指標の定義や目標設定の考え方なども併せて記載しております。素案とあわせてご覧いただきたいと思います。 先ほど申した通り、一つ一つの KPI につきましてはご説明を省略したいと思います。また、それぞれのご専門の分野の中で精査いただきたいと考えております。 なお、数値が定まっていない指標につきましては、策定委員の皆様のご意見等を受け、再度指標の検討や見直しを行ったものであり、8月に実施する市民アンケートや各部局独自の調査により9月末までに決定することとしております。本日、お示しすることができませんが、次回の策定委員会までに整理したいと考えておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。 今後につきましては、策定委員の皆様からのご意見を踏まえ、改めて市の分科会において検討を重ね、10月までの間で素案の修正作業を進めます。十分な時間をかけて、より実効性のある計画を策定してまいりたいと考えています。 その検討を踏まえ、「原案」を作成いたしまして、次回、11月7日（金曜日）に開催する第5回策定委員会で、改めて策定委員の皆様からご審議いただきたいと考えております。 その後パブリックコメントや最終回となる第6回策定委員会などを経て、策定委員の皆様から市長へ答申をいただき、年度内に計画を策定してまいりたいと考えております。 説明は以上です。 それでは、これから計画の素案についての討議に入りたいと思います。 なお、資料のボリュームが大きいため、資料2「計画の素案」の項目ごとにページを区切ってご意見を伺います。
------------	---

	時間の都合もありますので、概ね 1 項目 15 分程度で議論いただきたいと思っています。 意見を拾い切れない場合もあるかと思いますが、後日、委員の皆さんへ追加の質問や意見がないか事務局から伺います。発言が足りなかったり、会議後に気づいた点などがあればその際に書面にてご意見をお聞かせいただきたいと思っています。よろしくお願いします。
委員長	まず、素案の P2「第 1 章序論」から P23「第 2 節重要業績評価指標 K P I」の記載について、質問やご意見のある方は挙手をお願いします。
委員	議論を始める前に確認したいのですが、資料 1 と資料 2 別紙については、資料 2 について議論した後、意見をする時間があるという理解で良いでしょうか。
地方創生推進 部長	資料 1、別紙 2 につきましても、この段階でご意見をいただければと思います。不足等があればこの場面でご意見をいただければと思います。
委員長	ご意見等が無いようですので、気が付いたことがあれば改めてお聞かせください。
	P24 から P48 の「基本目標 1、誰にも優しく寄り添う共生社会のまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
	前回の策定委員会にて本部分の協議をしていただいた、渡辺委員はいかがでしょう。
委員	「子育て対策は充実しているが、そこに至る結婚を促す様な出会いを増やすという項目がない」という意見を入れ込んでいただきありがとうございます。少子高齢化対策というよりは、一人ひとりの幸福を実現するという観点でありがたいと考えています。
委員	P46 政策 1-7 に関連して、今後 10 年でコロナウイルスに関連して個別に対策が必要なことと、大まかに求められていることについても対策をしないと考えると考えています。計画の内容が様々な部署に分かれているため、医療体制の内容においても別項目に分かれている状況であり、分かりづらいと感じた。
委員長	ほかにご意見はありますか。
委員	P24 の主要指標について、「町内会や子ども会の活動や、地域の祭りやイベント、清掃活動などの地域活動に参加した経験のある市民の割合」と、「地域活動とは別に、ボランティア活動や NPO 活動など、より暮らしやすいまちをつくるための市民活動に参加した経験のある市民の割合」の内容が重複しているかと思い、回答者が回答しづらいのではと気になりました。皆様はどのように考えますでしょうか。

地方創生推進 部長	市民アンケートを毎年取る際の設問として取るものであるため、初見の市民の方がアンケートの設問を見た際に正しく受け取って回答いただけるのか、ということでしょうか。
委員	その通り。前者は「町内のイベントに参加した」と回答できる一方で、後者は市民活動団体が実施したイベントに参加しただけでも「参加した」という理解になるのでしょうか。「自発的・主体的にイベントを実施しないと参加に該当しないのでは」と回答時に躊躇するかと思います。自分が主体的に関わったかどうかを聞きたいのか、もしくは、イベントに参加していれば良いのでしょうか。
市民協働推進 部長	前回の市民アンケートでは、市民活動と広域的な活動の経験を同一の項目で伺っていました。今回は、地域的な活動への参加有無と、広域的な活動への参加有無を分けてお伺いしたいと考えました。地域活動として、祭りやイベント、ボランティア等への参加でも問題なく、必ずしも中心的に関わっている必要はなく、広い意味で関わっている人を伺いたい趣旨のアンケートとして考えています。
委員	その方が良いと考えます。
地方創生推進 部長	いずれにせよ、他K P Iと比較しても設問文が長文になっているため、市民の方に対して分かりやすい表現にする形で精査したいと考えております。
委員	P39 政策 1-5 「障害の有無にかかわらず、誰もがいきいきと暮らせる」について、施策においては雇用促進や引きこもり対策等、悩んでいる方への支援が具体的に記載されている一方で、誰もが「いきいきと」暮らすためには、障害を持っている方に対する市民・周囲の理解も必要不可欠だと考えています。長岡市の考えをお伺いしたいです。
福祉総務課長	ご指摘の通り、周囲の方の理解は重要だと思います。改めて検討したいと思います。
委員	P24 の主要指標「町内会や子ども会の活動や、地域のまつりやイベント、清掃活動などの地域活動に参加した経験のある市民の割合」について、数値が 100%になってしまうのではないかと。長岡まつり等のイベントを考慮すると、かなり多くの人に参加しており、指標として取る意味があるのか疑問に思います。
市民協働推進 部長	どのような定義とするのかによるが、身近な社会とのかかわりに着眼し、町内会や子ども会といった例を挙げた。市民にとってわかりやすい例を挙げた次第でした。
委員	それでは、本指標の KPI としては、「100%」を目指す理解でしょうか。
市民協働推進 部長	はい。長岡市は市民活動が盛んであるということを理解してもらいたいため、その意識もあります。

委員	資料 2 P28「無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」について、資料 1 47 番目の解答欄「あらゆる機会を通じて意識啓発を行う」というのは具体的に何を指しているのか。抽象的な文言が多すぎて、どこに力を入れていくのが把握できないように見えます。特に力を入れるポイントが見えると良いと思います。「アンコンシャスバイアス」においても、具体的にどのような点に力を入れていくのかというものがあればご意見を伺えればと思います。
女性活躍担当部長	ご意見ありがとうございます。ご指摘の通り、抽象的な回答なので、どこに力を入れるのかと思われる気持ちはわかりますし、また、どこに力を入れていくべきかという思いは我々にもあります。ただ、アンコンシャスバイアスは非常に解決が難しい問題で、すべての世代に対して様々な機会を通じて取り組みを行う必要があるため、普遍的な回答としています。アンコンシャスバイアスは世代間で差が大きく、若年層では少ない一方で、お年を召した方においては今までの価値観を刷新することは難しい部分もあるのではないかと感じています。我々としては、若年層に比重を置いて取り組むことが効果的ではないかと思っていますが、「すべての世代」を対象に、学校・社会教育等の様々な機会での取り組みが必要だと考え、こうした回答としています。
委員	P30、施策の柱 4「出会いの創出と結婚への支援」について、人口減少対策の柱の一つとして、結婚・妊娠・出産を経ないと人口減少対策への一手にならないと思います。若年層の結婚への意志が無い方の理由は多くあり、長岡市が支援をできる部分としては、物価高対策、将来への不安等に対する支援だと思っています。また、「主な取組」部分に「結婚に伴う不安や経済的な負担を軽減するため、新生活への支援に取り組みます。」とありますが、どのようなことを具体的に考えられているのかお聞きしたいです。というのも、長岡市における新生活支援や、結婚に際しての支援が他市と比較して手薄であると聞いています。長岡市における新生活の支援等について特徴があればお伺いしたいです。
地方創生推進部長	ありがとうございます。委員がおっしゃる通り、長岡市はなかなか努力ができていない。県内においても、結婚・新生活に対する支援や出会いの場づくり等に取り組んでいる自治体も多い。長岡市が出遅れている印象はある。例えば、極端な話であるが、小千谷市や見附市と比較して長岡市には支援が無いと言われることもある。また、移住・定住の際に他の市との比較されることもある。少なくとも新潟県内の他市町村並みの支援は行っていく必要があると考えている。金額等は申し上げられないが、他市町村並みに新生活や結婚等に対する支援を進めたいと考えております。
委員	長岡市ならではの支援があると良いかと思います。もちろん、金銭面での

	画一的な支援ではなくても、様々な角度からの支援やメリットが提供できれば良いのではと思います。
委員長	次に、P49 から P68 の「基本目標 2、子ども・若者が夢や希望をもって育つまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
委員	P49 変わるれ！宣言について、「日本一質の高い教育のまち」を具体的にどのように定義するのか。提示している KPI のみでは捉えられないのではないかと思います。具体的な「質」を定義する必要があるかと思いますが、考えをお伺いしたいです。
教育総務課長	「何をもって日本一というのか」について、決して他の市町村との比較を行ったうえで決めるということは考えておりません。重視していることとして、「学び」は、学校での勉強だけではなく、一人ひとりの興味・関心に沿って体験等ができる教育が提供できるということを指している。教育委員会としては、大きな意味で日本一を掲げておりますが、一人ひとりの子どもに最適な学び、という観点で総合的に日本一を目指す、という意気込みを込めたキャッチフレーズで考えています。
委員	個別最適化の学びを実施し、支えることができる、と考えた際に、「学び」の範囲は子どもたちだけではなく、社会全体の話になると思います。今後、教育の考え方、育みたい力も変わってきており、大人の教育も重要になるのではないかと考えられますし、それが日本一の教育に繋がるかと思います。基本目標 2 については、子どもに対する教育の言及は多くありますが、大人に向けた教育（生涯学習）についての考えもお伺いしたいです。
教育総務課長	生涯学習に関しては我々の所管ではないが、保護者・社会全体という観点では、子どもをとりまく様々な関係団体・民間企業との協力も含んでおり、それらについては記載があります。
ミライエ長岡 担当部長	少子化等を鑑み、まちなかキャンパス長岡にて議論する中では、どちらかというと小中高の学生に対する教育に力を入れる方向で考えています。次期総合計画の施策の柱においても子どもに重点を置いています。
委員	P51 施策の柱 2 「学校外のまなびの満足度」について、確認ですが、生成 A I 等の時代背景を踏まえ、将来子どもたちが活躍するために必要な力が変わってきているという文脈を踏まえて、「学校外の学び」に力を入れるという認識で良いでしょうか。
ミライエ長岡 担当部長	国においてはデジタル人材の育成に力を入れているということもあるが、「生き抜く力」といったものも必要かと思っています。どういった人材にどういった学びを提供するのかは非常に悩んでいるところです。デジタル人材を育成することも行っていますし、国際交流ができる人材を育てている面も

委員	あります。本計画の KPI としては大雑把な内容を設定している実態はそういった背景があります。 背景は理解しました。今後 10 年間にわたって継続する計画として、現在提示している KPI 1 つのみで良いのか、というのは問題提起したいと思います。 また、P63 において、「育児が楽しいと感じる親の割合」という KPI についても、現時点で既に数値が高いと思いました。妥当性を一考いただきたいと思います。「楽しい」と回答している 85%の方々において、子育てに向き合っている人の感情を表現しきれていないのではと思っています。KPI として妥当なのか疑問に思います。
委員	生涯学習に関連して、P49 基本目標 2 について、主語が「子ども・若者」という主語である一方で、「変わるれ！宣言」には「誰もが学びに熱中できる」、「生涯にわたり」、という文言や、「あらゆる年代における」などのメッセージがあるかと思います。「子育て・教育」という大きな主語とは乖離がある印象を受けています。すっきりする形にできないかと考えている次第です。
地方創生推進 部長	基本目標と「変わるれ！宣言」をはじめとした各政策の間で、ずれが生じているというご指摘だと受け取りました。例えば、「子ども・若者を中心に」という基本目標であれば腑に落ちますでしょうか。
委員	では「高齢者はどうなのか」という考えも少しあります。
地方創生推進 部長	おっしゃっていることはよくわかります。現時点の文言で最終決定となるわけではありません。じっくりこないということであれば、もう少し議論は進めたいと思います。「夢や希望をもたないとだめなことなのか」、という趣旨の意見もいただいたこともあります。「子育て・教育」と「生涯学習」等の文言に乖離があるということについてはおっしゃる通りかと思いますので、整合性はお時間をいただき議論をしたいと思っています。
委員	「子育ての楽しさ」について、私は KPI として妥当だと思います。そこには「楽しいけど大変」といった葛藤があるかと思いますが、生きていく中で自分の思った通りではないこともあるかと思いますが、子育ては楽しいと思っていました。そのため、数字だけではない背景があるということが伝われば良いのではと思います。また、「自分らしく」という冒頭文が追記されたのは良いと思います。子ども自身が幸福を自分で定義でき、胸を張って幸せだ、と言えるのであれば良いと思います。数字としては妥当という感覚があります。
委員	P63「育児が楽しいと感じる親の割合」という KPI について、また、P58 施策の柱 3「自分には良いところがあると思う児童生徒の割合」という KPI について、数値化にそぐわない主観的な内容であるため、違和感があります。自己肯定感・自尊心に繋がる内容は繊細で個人的な内容であり、かつ、外部

	的な要因に影響されると思います。こういった内容を KPI にすることは先生や子ども等、各方面へのプレッシャーや形式的な数値の達成に繋がる可能性があると思います。 数値の達成要因を明確にするために、主観的ではなく「施策の成果」として上げることができるものが良いかと思っています。「育児が楽しいと思えるか」ということよりも、「育児に不満を抱えた際に相談できる環境があるかどうか」、「家庭外に相談できる環境がある」等、環境面の KPI の方が施策の実効性を高めるために有効だと考えますが、いかがでしょうか。 本 KPI については自己肯定感を伺いたいという趣旨でした。我々が考えているキャリア教育として、自分をよく理解したうえで将来の仕事や人生のスキルを子どもの頃に身に着ける教育活動を目指しています。いただいた意見も理解できますので、改めて検討します。
学校教育課長	
委員	ハード面では教育環境が整っているかと思いますが、それがキャリアの実効性にどれほど有効かは疑問に思う点があります。中学校の職場体験を受け入れている中で、「こめぷら」が有効に活用されていないと感じました。
子ども未来部長	本 KPI について、他の KPI を設定することも考えられるだろうが、子育てはそもそも精緻化が難しい分野だと思います。検診時に「育児が楽しいと思うか」という設問を設定しており、アンケートを取っています。子育てを楽しんでくれる施策・支援体制を作ることが必要であると考えて本 K P I を設定していますが、改めて検討したいと思います。
委員長	続きは直接お願いできればと思います。
委員	P51、P52 について、ミライエ等の中心市街地の話にとどまっているが、中心市街地以外は問題ないのでしょうか。また、「長岡市に住みたい人の割合」について、「住んでいる人の割合」の方が適切ではないのでしょうか。
ミライエ長岡担当部長	ミライエを作るにあたっては、「オール長岡」の中心施設として考えています。また、本 KPI を設定した意図としては、若年層をターゲットとして設定しています。正しくは、「長岡市に住みたい、Uターンして帰りたい人」の数をとりたかった趣旨であります。
委員	住みたい人の割合を増やしても実際に長岡市に住んでいないと意味がないのではと思います。住んでいる人が増えていないとならないのではと思います。
ミライエ長岡担当部長	実際に人口を調べれば統計上は把握できるが、それでは人口減少対策の取り組みになってしまうと思います。特に若年層には「長岡市に住みたい」という気持ちを持ってほしいという意図があります。結果としての人口は統計で把握できます。我々の事業においてなぜ本 KPI と設定しているかという、学びを通じて地元・地元企業を好きになってもらう人を増やしたい、という

	目的です。総合計画における様々な施策の結果として若年層の人口が増加すると、総合計画全体にかかる指標になるのではと思います。学びの観点での指標としては本 KPI が妥当だと考えます。人材育成を通じて「長岡市に帰ってきたいと思う人」を増やしたいという意図です。総合計画の全体指標として人口を確認することは妥当であると思います。
委員長	次に、P69 から P91 の「基本目標 3、災害や雪に強く、暮らしやすい安全安心なまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
委員	P69「公共交通の人口カバー率」について、現状・中間目標・最終目標値が変化していないかと思います。例えば、路線バスの撤退によって人口カバー率が低下するというものと、現在路線バス等が走っていない地域に走らせることによってカバー率を上げるという 2 つの施策が同一の指標になっているのでわかりづらくなっているものと思いました。マイナス面に関する記載はあまり記載する必要は無いと思いますが、プラスの面として、今まで公共交通が無い地域に対するカバー率を増加させる等、施策と直接リンクするような記載方法が良いのではと思います。人口減少の結果として人口カバー率が向上する可能性もあるので、施策と関連したものを入れた方が良いと思います。 また、道路ネットワークの満足度についても回答しづらいかと思います。既に満足度が高止まりしている状況であるため、施策に対する定量的な値を検討していただければと思います。 また、P77 の施策の柱「安全意識の普及」については、「意識」の向上のみで良いのかは気になります。たとえば、危険な道路・交差点もありますし、高齢者の免許返納、横断歩道で止まる自動車の割合を増加させる等、それぞれのターゲットに対する施策に関する KPI があると良いと思います。
委員	確認ですが、P86「まちなか居住区域の人口割合」について、現時点で目標値よりも上振れしているかと思います。上振れした理由を認識されていたら確認したいです。また、これに伴って中間目標・最終目標を上げていくことも検討されるのか、お伺いしたいです。
都市整備部長	まちなか居住の人口割合の数値について、数値自体が立地適正化計画における令和 22 年の目標値をそのまま採用している。現時点で数値が大きくずれていないため、上振れ分を加味して KPI を上方修正することは考えていません。
委員	P91「雨水排水計画に対する整備率」について、中間目標までは現状維持で、最終目標までに整備率を上昇させるという計画だと見受けられますが、KPI の数値の設定における考え方を教えてください。

理事（土木部長）	インフラのため、効果を発揮するまでに時間がかかることを考慮して KPI を設定している。特に最終目標については、市内最大級の貯留槽の計画を進めています。効果が発現するのは 5-10 年先となります。
委員	P69 ハード面については言及されているかと思いますが、ソフト面・災害発生後についても安全なまちづくりという観点で言及が必要な項目だと思います。私はラジオ局で勤務しているため、情報発信、特に災害発生後の情報発信等についての言及がないように感じました。防災・減災が前提ではありますが、災害発生後の対応についても項目に盛り込んでもらえると良いと思います。DX、あるいはラジオ等のアナログ媒体においても情報が取得できる等、全市民の皆様に情報が伝わる仕組みについても言及できていると良いかと思います。
危機管理監	情報発信については、例えば、SNS、ラジオ、自宅への一斉架電等、様々な形で取り組んでいます。また、災害時の対応として避難所への発電機の設置、N T T ・東北電力との協力による電気の復旧等にも取り組んでおり、これまでも取り組み内容を HP や市政だよりで発信しています。受け手側に対しては情報が伝わるよう取り組みを多種多様に進めている。こういった取り組みは KPI としての目標値というよりは、当然行うことです。そうした中で、取り組みについては PR していくことも必要ですが、受け手側の登録を進めていく必要があると思っています。長岡市の LINE から災害情報を選択してもらえれば住民が必要な情報を取得できます。LINE の登録者を向上させていくことは必要だと思っています。当初は土砂災害のみを掲載していたが水害・鳥獣被害等も含め、多様化しながら情報を受け入れる体制は整えつつあります。即時性や情報の漏れが無いよう、様々な情報を何らかの形で情報を渡す形を構築している。そういった取り組みはあえて記載していない形をとっています。
委員	長岡市の HP においても防災の関連情報はまとまっていてわかりやすい一方で、どれだけ市民に届いているかが気になったところです。
委員	P71 主な取り組みにおける、「防災リーダーを育成するとともに、防災教育を推進します」という部分について、防災リーダーを「育成」するだけではなく、人材を活用しながら自主防災組織の活動率を上げたいのだからと思います。したがって、育成された防災リーダーが学んだだけではなく、どのように活動・活躍できたのかが非常に重要になると感じます。KPI において、例えば、「自主防災組織の活動が防災リーダーによる支援によって活性・増加した割合」等を記載してはいかがでしょうか。
危機管理監	自主防災組織の活動率については記載の通りです。各自主防災会においては、防災の専門家がいな中で防災士にいてほしいという思いがあります。

	各自主防災会においてどのような活躍をするのかというのは非常に重要です。実施に、能登半島地震においても、自主防災会があった方が災害時にうまく対処できるという事例もありました。長岡市の職員を能登半島地震に派遣しましたが、自主防災会数よりも防災士数の方が多いという自治体もあり、そういった地域では明らかに初動が違いました。そういった部分は力を入れて進めていきたいと思います。KPI に入れ込むかどうかは検討したい。防災士が自主防災会に入っていれば活動率が向上するかと思い、複合的に活動率を上げたいという意図で目標に設定しています。また、そのための防災士の育成を行いたいと思っています。
委員	外部からの応援によって活動が活性化され、それによって自分の地域を安全にするため、他地域のために防災士の資格を取りたい方もいるかと思います。関わることによって動きだすものがあるという観点では、市民協働にも近いですし、学びたい意欲を高め、ひいては防災リーダーが育成されるのではと思いました。またご検討いただければと思います。
委員	P72 「救急救命士有資格者数」について、他の KPI も同様ですが、数値の妥当性や数値の設定意図が把握できないため、教えていただきたい。救急救命士であれば、5 年後に 2 人、10 年後に 3 人のみの増加ということで、少ないのではという印象です。実際にどういった判断でその数値にしたのかお伺いしたいです。ネット上で調べると 334 名の消防職員がいるとのことなので、34%、10 年後だとすると 36%かと思います。割合を用いているのか等、教えていただきたい。
消防長	また、P86「中心市街地」の定義を教えてください。私は個人事業主なので、開業場所は自宅となりますが、事業所としては別になります。どちらを見ているのかお伺いしたいです。
	KPI の数値だけを見ても根拠が分からないというのはごもっともだと思います。現在、長岡市消防本部内において、救急隊は 14 隊あり、1 隊につき救急救命士を常時 2-3 人配置しておくと思っております。24 時間勤務ということもありますが、要員の確保のため、最低でも 120 名の確保が必要という計算になっています。120 人となりますと、救急車 1 台あたり 2-3 人の救急救命士が乗ることができるということになります。現在、115 名の救急救命士がおり、目標とする 120 名について、たった 5 人と感じるかもしれませんが、退職する方も毎年 2-3 人いるため、退職補充もしながら人数を増加させるということを鑑み、設定しています。
中心市街地整備室長	中心市街地活性化基本計画という計画があり、対象区域が大手通交差点を中心とした半径 500 メートル以内としており、そのエリア内を指しています。また、新規に域内で事業所を構え、起業支援センターに相談いただいた中で

	起業された方をカウントしているため、実際はカウントできていない方もいるかと思います。
委員長	次に、P92 から P109 の「基本目標 4、産業が成長し活力を創出するまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
副委員長	2 点ご検討いただきたい。「変わるれ！宣言」における、「外国人旅行客倍増」は KPI に落とし込めるかと思いますが、検討いただきたいと思います。また、P98 施策の柱「企業誘致推進」について、「誘致企業就業者数」を KPI としていますが、「誘致企業数」も KPI になるのではないかと思います。
委員	P99 施策の柱 3 の「多様な」という文言について、KPI に設定している起業件数における内訳が確認できないため、若年層や男性ばかりが起業しているという可能性も考えられます。また、P86 の「中心市街地で起業する人の数」においては、2030 年度までに 45 件、2035 年度までに 36 件と減少している。一方で、P99 起業件数では 2030 年度まで、2035 年度までで 200 件ずつと設定しているかと思いますが、理由をお伺いしたいです。
商工部長	P99 の Clip 長岡の支援による起業件数につきましては、これまで 300 件を超える起業を実現しており、年間 400 件を目標に据えております。「多様」については多くの意味合いがあります。男性・女性というものもあります。Clip 長岡ではサービス業の方に対する支援が多いが、製造業のまちであるということも鑑み、製造業への支援、幅広い業種への支援という意味もあります。一定の領域等にとどまらず、多様な方向を意識したいと思います。
中心市街地整備室長	P86 の起業件数については、基準値を令和 6 年としており、令和 7 年分が含まれていませんが、年平均 7.2 件として計算しております。
委員	特定の領域・業界・年代に集中して起業したとしても KPI が達成可能かと思いますが、詳細に KPI を出すと「多様な」という観点で良いのではないかと考える。
委員	現状の産業政策（基本目標 4）と基本目標 2 がリンクしていると長岡市の戦略として意義があると思います。例えば、起業・創業に関して、基本目標 2 において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合」というのは起業に繋がるかと思いますが、「自分には良いところがあると思う児童生徒の割合」は自己肯定感に通じていると思う。一方で、産業政策において出てくるキーワードは「デジタル」「ものづくり」などである。これらの文言は基本目標 2 には出てこないため、全体から俯瞰して見たときに説得力を持たせられるようにした方が良いと思います。
委員長	産業・経済活動の中で変わるべき項目は KPI として記載されているが、経済活動全体を示す指標も必要なのではないかと思います。例えば、工業品出荷額、

商工部長	農産品出荷額等、事業所数等がどうあるべきかの記載が必要なのではと思っています。 おっしゃる通りだと思います。製造品出荷額の拡大等も必要です。本資料で記載しているのは、我々が施策でご支援させていただく事業に係る KPI です。製造品出荷額・GDP 等は取り組みの帰結としての数値になるため、出していない次第です。
委員	P99 主な取り組みについて、若者・女性にこだわる必要はないのではと思います。また、起業するだけでなく、起業したあとの動向も重要であると思っています。というのも、近年は小規模な起業が増加しているかと思います。そういった方がしっかり継続しているのか等、納税できる企業の増加が重要だと思います。
委員長	次に、P110 から P125 の「基本目標 5、にぎわいや交流が生まれる魅力あるまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。
委員	P115「長岡市の歴史・文化に対して愛着を感じる人の割合」、「地域の宝に関する授業により地域の宝を大切にしたいと感じた小中学生の割合」等、「感じる」だけではなく、気持ちが持続する必要があると思う。「実際に伝統を受け継ぎ取り組んでいる人」等の実数の方が先の取り組みに繋がるとは思います。すが、いかがでしょうか。
地域振興戦略部長	本事業においては、各地域にあるさまざまな地域資源を磨き上げつつ、次世代に継承していくことを大きな目的としています。ご指摘いただいた内容も重要かと思うので、別途取り組みたいと思います。
教育総務課長	担当課と相談します。
委員	P114「歴史・文化や伝統の継承」について、「重要文化財「旧長谷川家住宅」をはじめとする貴重な文化財の保存・保護・修理を適切に行っていきます。」等と記載がありますが、無形文化財（伝統芸能等）も多くあるにも関わらず、消失してしまっているのが現状です。このような現状を食い止める手立てはないのでしょうか。
地方創生推進部長	基本的には科学博物館の所管だと思います。伝統芸能では神楽等だろうと思いますが、科学博物館も重要視している部分だと思います。取り組みの中でできることを検討することになると思います。
委員	P119 について、インバウンドの KPI が無いように見受けられます。あった方が良いのではないかと思います。
観光・交流部長	インバウンドの KPI については検討したいと思います。ただ、実情として、外国人宿泊者数については、国、県において、市町村レベルでの確定した統計を取っていないため、県と調整したいと思います。

委員 委員	「長岡市の英語版 HP の閲覧者」等、できる範囲で良いと思います。 P112 について、学校教育と平和教育、伝統文化の継承等はどうに関連しているのかお伺いしたいです。 また、P112 における「所蔵教育のデジタル化」等においても、こめぷらと連携することで、子供たちが平和教育や伝統文化等について学びを深められる場になると良いのではと思います。
委員	P122、 KPI「文化芸術に関する事業の参加者の満足度」について、長岡市民がどれだけ文化芸術を愛して取り組んでいるかを測る指標として、「市民のどれだけの団体が活用したか、利用したか」等を知りたいと思うがいかがでしょうか。
市民協働推進 部長	文化・芸術に親しむ機会を提供するという観点で、利用者数等の KPI にしても良いかと思います。既存のデータでは満足度の調査を行っていたため、現在の KPI にしていたが、改めて検討したいと思います。
委員	その施策として、芸文財団の市民活動に対する補助金を出しているということにもつながると思います。どれだけ活用した団体がいたのか、数を出した方が良いと思います。
委員	P110 基本目標について、当初の策定委員会においても長岡らしさを出した方が良いという話が出ていたかと思いますが、主要指標は「長岡らしさ」が薄いと思います。私は愛知県出身であるが、戦争に関する教育の印象は薄いです。歴史・文化においては特に長岡らしさが出せると思います。主要指標と「変わるれ！宣言」はリンクさせなくても良いのでしょうか。
地方創生推進 部長	おっしゃる通り、基本目標、「変わるれ！宣言」、主要指標がリンクしている中で、長岡らしさを出すことは重要だと思っています。再検討したいと思います。
委員長	次に、P126 から P133 の「基本目標 6、市民の期待に応え、信頼される行政を推進するまち」について、質問や意見のある方は挙手をお願いします。 ご意見が無いようでしたら、本日オンラインにて参加されている勝身委員からご意見があればお願いします。
委員	様々な意見があった中で、非常によくまとめられているなと思いました。コメントについては、チャットで後ほど長岡市にご確認いただきたいと思います。
委員	丁寧にまとめていただきありがとうございます。私も文章にて追ってご共有したいと思います。 全体を通じて、構成・基本目標・総合指標・主要指標について、非常によくできており、分かりやすい。

副委員長	構成について、基本目標、総合指標、主要指標、KPI と分かれており、非常にわかりやすいと思います。 辛口なことを言うと、キャッチフレーズ「変わるれ！長岡 住み続けたい 戻ってきたい 選ばれるまち」については総合指標と対応している一方で、「イノベーション先進都市」は他とのつながりが部分的であり、弱いと思います。 また、KPI が直接的ではなく、代替指標や間接指標になっている。この KPI を見て施策を思い浮かべることができる、達成に向けた道筋を感じられる KPI になっていないかと思います。これは KPI ではないと思います。もし可能であれば施策に繋がりうる測定可能・達成可能な指標が良いと思います。例えば、「結婚支援」という施策があった際に、「結婚した人の数」等を指標とするべきだと思います。KPI をもう一度見直していただきたいと思います。
地方創生推進部長	副委員長、ありがとうございました。イノベーションについては私どもも数年来力を入れてきた取り組みであります。指標からは繋がりが薄いという受け取られ方をされているという理解であります。キャッチフレーズに入れさせていただいた「イノベーション先進都市」についても、測定可能なのか検討したいと思います。 KPI についても、現在設定している指標がベストか議論する中で、現在取得できる指標や代替指標について検討している状況。手前味噌な指標になっている状況もあるかと思うので、第5回策定委員会に向けて、より直接的・定数的な指標を取得できないか検討したうえで、第5回にて諮りたいと思います。
委員長 委員	何かコメントがありましたらお願いします。 P101、「次世代につなぐ活力ある農林水産業の実現」における施策の柱について、26 年前から変わっていないと思います。P102 の KPI について、経営体の記載はどの程度の規模なのかお伺いできますでしょうか。
農林水産部長	農業の課題において、課題の内容は変化してきています。また、担い手農業者の数について、あくまで規模は考慮していません。
委員長 副委員長	最後に、全体を通して副委員長からお願いします。 全体感としては相当煮詰まっていると思います。KPI については施策・方針と具体的な KPI がマッチしていない部分が多いかと思います。もう一度施策と KPI が具体的・定量的に評価できるものなのか揉んでもらいたと思います。市の計画として 125 の KPI を毎年評価することは画期的だと思います。
委員長	以上で本日の会議を終了したいと思います。後は文章にて事務局にご提出いただきたいと思います。私の意見としては、KPI がこれで良いのかどうか

地方創生推進 部長	は疑問に思う部分もあるかと思えます。 委員長、進行をありがとうございました。最後に、「4 その他」についてです。繰り返しになりますが、後日、委員の皆さんへ追加の質問や意見がないか、事務局から伺いますので、時間の都合上、ご発言いただけなかった方や、会議後に気づいた点などがあった方は、その際にお聞かせいただきたいと思います。 次回、第5回長岡市総合計画策定委員会は、11月7日（金）午後2時から2時間～2時間半程度を予定しております。 時期になりましたらご案内を送付させていただきますので、あらかじめご予約をお願いいたします。 第5回の内容につきましては、「計画の原案」を議題といたします。 本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。 これをもちまして、第4回長岡市総合計画策定委員会を閉会いたします。
9 会議資料	別添のとおり